

事業報告

学発番号： 学19-031

事業名： 南部研究班 緊急検査研修会

日時： 令和元年10月17日（木） 18：30～20：00

場所： 京都山城総合医療センター 9階会議室

主題 血液ガス検査で大切なポイント

講師： 中島 聖己 氏（シーメンスヘルスケア・ダイアグノスティクス株式会社）

参加数： 総数：18名（京臨技会員：18名）

報告者： 橋本 行正（京都山城総合医療センター）

以下、講演内容など

血液ガス検査の基礎的な内容から呼吸管理、酸塩基平衡（アニオンギャップ）、注意するポイントについてわかりやすく説明されました。呼吸管理のFiO₂の説明では大気圧から酸素濃度の算出方法について、酸素マスクや鼻腔カニューラの吸入気酸素濃度の違いについて、各測定項目ではPO₂、PCO₂、sO₂について報告すべき異常値等、病態ではCO₂ナルコーシスの状態に陥る過程について説明された。酸塩基平衡ではPHとHCO₃⁻、PCO₂の関係について、ベースエクセス（BE）はメイロン投与量の目安等になっていることなどを説明された。症例の例題を4例提示され、判断していく過程をわかりやすく説明、4例目でアニオンギャップ、ラクテート（乳酸）についても説明された。注意するポイントとして温度変化による測定値の変動や採血上の注意として気泡の混入、攪拌することや患者の状態、測定の際にも再度気泡の確認、攪拌、捨て血すること、検体保存時の注意事項について説明して頂きました。参加者からも臍帯血の測定意義について、保存方法や期間等についての質問があり、有意義な研修会となりました。現場に戻った時に今回の研修会で学んだ知識で血液ガスの測定値を判断して頂けるようになったと思います。